

せん孔細菌病 枝病斑の切除と対策

4月は風が強い日が多く、せん孔細菌病の感染拡大・多発が心配されます。

せん孔細菌病発生園では、薬剤防除と併せて、春型枝病斑の除去が必須作業となります。特に、春型枝病斑は開花期から確認されますが、病斑をそのまま放置しておくと感染拡大につながります。春季に枝病斑を除去することで、夏季の果実感染が軽減されます。

発生園での防除ポイント

- ① ……「枯れ枝の除去」と「春型枝病斑(スプリングキャンカー)の除去」 園外への持ち出し
- ② …… 重点防除時期の薬剤散布は、10日間隔で必ず降雨前の予防散布に努める
- ③ …… SSでの散布は風圧を抑えて、ゆっくりと丁寧に
樹全体に薬液がかかる程度の風圧で丁寧な散布をこころがけましょう。
- ④ …… 樹上灌水は可能な範囲で止める
樹上散水によって、せん孔細菌病の感染が広がる恐れがあります。ただし、玉肥大への影響や灌水を必要とする品目もありますので、ご注意ください。

① 枝の先端が枯れる症状



② 枝の中間部の芽が枯れる症状



【上記の症状が見られる場合は、見つけ次第、切除しましょう】

農作業中の安全・安心確保、事故防止のため、下記事項に注意しましょう。

◎公道に軽トラや作業車を駐車する際は、十分に安全を確保しましょう。

⇒ 特に、交通量の多い道路脇への駐車は事故の危険性が高まりますので、控えましょう。

◎SS等による農薬散布時の周辺への飛散（ドリフト）に注意しましょう。

⇒ 特に、強い風が吹いている状況での農薬散布は、園地外への飛散の可能性が高まりますので、控えましょう。

◎公道等に飛び出した樹体の枝は、切除しましょう。